midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

October 2015 No.405-406

１０月号の１枚：相模湖・嵐山の森、秋の大収穫祭

優良林山地に学ぶ

流域を繋ぐ森林の保全・再生

2001年４月、高知県林務部のご紹介で我が国FSC認証取得第２号の「梼原町森林組合」を訪問しました。今では押しも押されぬ優良林山地：四国各地の森林組合の先達として成果を上げておられます。成功の要因は県・担当者と梼原森林組合が共有した熱意と信頼関係だと思います。

梼原町からの帰路、三重県・尾鷹のFSC認証取得第１号の「速水林業」をお訪ねしました。事務所・倉庫内の整理整頓は当然ながら、自然林・人工林の見事な美しさ、そこで働く人々の真剣な立ち居振る舞い、信頼関係の深さ。林業機械の改良や新種人工杉の研究圃もありました。

2008年当時、相模湖町は相模原市とは合併前でしたが、当会の森林に関わる関係者20名で群馬県・多野東部森林組合を訪問しました。この組合の理事長は女性で組合の元会計事務員でしたが、数字内容を精査して森林現場に改善策を提案し、優良森林組合に仕上げて行ったそうです。結果、理事長にまで押し上げられて今では組合で木材市場まで経営されています。この森の現場は見事に整理整頓されており、当会の考え方に大きな影響を与えました。

2013年、静岡県天竜の「金原財団」を訪ねました。サプライチェーンのあり方をご指導受けました。先月号でご紹介した愛知県・矢作川流域根羽村（人口約1000人）では「親が植え、子が育て、孫が伐り植える」と語り継がれていますが、流域都市民の「水を使うものは自ら作る自覚」の上流と下流の一体感で森は守られるものだと思います。早々に現場を学びに行く計画を立てています。

◎優良林山地には共通項があります。「自然と共に歩む理念」と50年100年先を見越した「森林ビジョン」の明確さです。場当たり的な政策・事業は、森林破壊の元凶です。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2015.10

10月 4日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり
いずれも弁当持参。参加費：４００円

10月18日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

9月6日（第一日曜日）

最近は暑さもだいぶ和らいできましたが、天気はまだまだ不安定な今日、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今月の小原定例活動では、先月持越しとなったハイキングコースへの道標の設置を行うための下準備として、順路の各所に完成した道標を置いていく作業を行いました。今回もForestNova☆側の参加者は少なく、卒業生の治田先輩を含め二年生以上の4名しか参加ができなかったので計6人での運搬作業でしが、一人3本ずつ、背負子も活用しての作業だったので何とか無事に頂上付近まで行くことはできました。途中、進んでいた道が違うことに気がつきハイキングコースの半ばほどから正規の道へ合流するというトラブルがあったので、最初に置いてきた数本は後日回収に向かうこととなりそうです。

今回も道には迷ってしまいましたが、道なき道を切り開きつつ進んでいった道中、様々なものたちにも出会うことができました。いろんな色や形のきのこたちがたくさん生えていたり、大きな洞窟のような穴を見つけておののいたり、崖のような斜面を渡るときに木のつるに助けてもらったり等々、大変ではありましたが、進んで行くにつれ次々に変わっていく景色や様々なものたちに驚かされながらの道中は、とても楽しかったです。途中細めの竹がたくさん生えているところにも遭遇し、竹の杖を手に入れたりもしましたが、広葉樹とは共存できない竹たちが針葉樹と一緒に生えていたのを不思議にも感じたので、これから植生の勉強も改めてしてみようかなと思います。

この日は午後から天気が崩れる予報が出ていたので、早めにみんなで小原の郷に下りましたが、気温もそこまで暑くはなく、活動中は天気も何とか曇り空のまま保っていてくれました。天気にも恵まれ久しぶりに登った小原の山は、道中色々なものを私たちに見せてくれて、足場が悪

くて疲れはしても、とても楽しかったです。私にとってはふとした時に行ってみたいなと思えるような場所なのだなと改めて感じた一日でした。

次回の活動では、間違った道に置いてきてしまった道標の回収と、ついに二本目の道標の本設置になります。少しずつではありますが、作業は着々と進み、ハイキングコースも完成に近づいてきました。今後も様々な活動を行うと思いますが、どの活動ででも、先や周りを見つめながら足で地面をしっかりと踏みしめつつ、目的に向かってさらに進んでいけたらと思います。

川﨑　茜音（Forest Nova）

[定例活動]知足の森

9月6日（第一日曜日）

今月の活動では広葉樹の森の除伐を行いました。同じ日に尾根の裏では小原の活動が行われています。そちらの活動でのハイキングコースとこちらの知足の森をつなぐルートがどうやらありそうだ、ということになり、そのルートも意識しながらの作業となりました。今月はその新しく計画しているルートと現在我々が作業している部分との最短ルートがつながるように、除伐を行いました。夏前までに森の入り口から沢沿いに奥までの作業道周辺は除伐ができていたので、その奥の地点から直角に曲がって上がっていったところがそのルートになるはず、と見込んで作業を始めました。今月も中高生に加え、岡山大学に進学した卒業生が参加してくれてました。今回も以前皆伐されたあとに萌芽更新しているコナラやその成長によって森が暗くなり、生えてきた常緑樹も一緒に整理していっています。午前の作業ではちょっと先が見えず、不安になりつつも、まずは目の前にある木を

という気持ちで作業を続けていましたが、さすがに午後からはそういう気持ちにはなれずにルートを確認しつつ、ルート上から作業地点を目指す、という作業方法に変更しました。途中雨が降ってきて、子どもたちはこれで作業完了、と思い始めているところで、止んでしまって、もうちょっとがんばろう、でもまた降ってきて、やった、いやもうちょっとなどと騙し騙し作業を続けて、あ、あそこがさっき作業していたところじゃないか、というところで時間が来てしまいました。このもうちょっともうちょっと、というところが中高生は難しいところですが、来月以降もがんばっていきたいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

9月20日（第三日曜日）

暑かった夏も過ぎ、今日は山仕事にはこれ以上ない爽やかな日和だ。ツルボやフジカンゾウといった秋の花々が笑顔で迎えてくれている。高井戸中OBと三鷹二中で編成される地球環境部はテスト週間のため参加は少なめ。どうやら望星高グループと合同で作業を行うようである。集まったのは総勢５０名。

お花畑班にはこの季節でも雑草との闘いが待っていた。クワクサ、イノコズチ、コセンダングサ、オオニシキソウ…。たった１本だけ残ったトウガラシとワタ、少し減ってしまったラズベリーを守るべく、やっかい極まりないこれら草たちを前に少ない人手で応戦しなければならない。と思っていると、班長の丸茂さんから「柿がなっているから、まず収穫から始めよう」との指令が出た。なるほど、木は小さいものの柿はたわわに実っている。まだ色付いていないものもあるが、来月までは待てない。ということで私も参加。このところ各班の取材ばかりで実労働から離れっぱなしなので、久しぶりに新鮮な気分を味わうことができた。小鳥さんたちの分を少しだけ残しておこう。

その後、木工班を中心とする材の仮置き場建設現場に移動。そこではフォレストノバの学生も加わり、柱材のほぞ切りが行われていた。精密さが要求される作業だけに大工の長谷川さんの指導のもと作業は慎重にも慎重を期して進められている。私はずうずうしくもここでもお邪魔した次第。手ノコで材を切る感触は心地よい。だが、気をつけないと墨付けのラインから反れてしまう。しかも角材ではなく丸太材なので、表を正確に切ったと思っても裏側に付けたラインからずれる場合がままある。釘を使わない伝統工法の難しさだ。途中まで何とか進めたものの、だんだん疲れてきたので後はノバの川崎さんにバトンパス。といえば聞こえはいいが、途中で仕事を投げてしまったというのが正直なところ。ここで時計は１２時を指す。

お昼にはかどや食堂のいつものスープに加え、季節の栗を甘く煮たいわゆるマロングラッセが振る舞われた。栗は基地の周りにたくさん植えられている。森林整備班の石井さんが朝礼前に集めてくれた沢山の栗の実も先ほどの柿と合わせ皆さんのお土産に。ノバの釜谷君は食菌であるタマゴタケをゲット。

午後からは取材に専念した。生命の森宣言東京は男女４名でA地区の間伐。平均年齢７５歳というが、とてもそうとは思えない活躍ぶりで伐倒、枝払いを精力的に行っている。今年１１月８日に開催される「川崎ネイチャーフェスティバル」の主催者メンバーも「ノコ引き体験」に使う材の搬出に余念がない。地球環境部と望星高チームはスギ２本を間伐したが、１本がテイカカズラのつるに引っかかってしまい少し苦労している。お花畑班はカツラ、ドウダンツツジの剪定と雑草採り。

ところで、この日は森林整備班の取材をすっかり忘れていた（すみません）。後で聞くと整備班はどうやら沢源頭部・水源地で頑張っていたようである。石ころだらけ、湧き出す水でぐずぐずになりがちな径路に木の橋を渡し、歩きやすくしてくれた。感謝多謝。これはどうやら「水源橋」と名付けられることになりそうだ。

ときどき犯す私のポカはとは反対に各班の作業ぶりはいつも通り見事なもの。おまけに柿、栗のお土産つきと、秋色をも満喫した一日であった。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
ForestNova報告
ecoconとの合同イベント

8月22日に嵐山で「全国大学生環境活動コンテスト(通称:ecocon)」と「Forest Nova☆」の合同企画である『森コン』が実施されました。この森コンとは、主に環境活動を始めようとした一年生に対して、自身の目と身体で森の中での環境活動を体験し、その後各々の団体で学んだ事を活かし実践していくという目的のもと、生物多様性をテーマに行われました。

森コンには参加者として四名の一年生が参加して頂きました。また前日まで心配されていた天気にも恵まれ、絶好の森林体験日和となりました。

森コンでは午前の前半の企画として、NPO法人緑のダム北相模から宮村先生を迎えて、「トンボ池のある街づくり」というワークショップを行いました。各グループに分かれそれぞれ違う役職に就き、自身の要望が通るように街づくりをしていきます。各班でどれだけその多様な生物を要するトンボ池や湿地を保全・活用していくか話し合い発表しました。各役職のスペースや地図の形は同じものなのにも拘らず、全く違う所に視点を持った街が作られました。

また午前の後半の企画として、嵐山の林内の散策を行いました。散策では自身の生活や興味のあるものと森との関連性、Forest Nova☆の活動しているB地点で木の年齢当てや午後の森林整備活動の説明を行いました。植えた時期が同じでも、その木が成長していく要因(光、土壌、水等)の違いにより、大の男性が抱きつけない木や小柄な女性でも抱きついて余裕のある木があることにみなさん驚いていました。

お昼を終え、午後はForest Nova☆が活動しているB地点での森林整備活動を体験してもらいました。今回の体験では作業径路の作成、整備と林床整備の2班に分かれ作業を行いました。1時間という短い時間ではありましたが、皆さん汗水垂らし、必死にカケヤを振ったり、散らばった木材をまとめて運んだりしてくれました。

もちろん今回の活動だけでは、Forest Nova☆の活動の全てを伝える事は出来なかったと思います。しかし、今回の森コンを経て、参加して頂いた方々の中に少しでも自身と森との共通点を見出していただけたら嬉しいです。

釜谷　優太
（Forest Nova）

[連載]
相模湖・若者の森づくりから

今月号では、８月に相模原市環境情報センター主催で行われた小学生対象の「フォレストキッズスクール」にスタッフとして参加した中学生の感想をご紹介します。

僕は今回の体験をとうして2つの事を知ることができました。

まず1つ目は小学生にどのように対応をすればいいかです。小学生の面倒を見るのは初めてだったので、どうすればいいのか分からず始めはあまり喋らなかったんですが、同じ班だった亀さんが熱心に生き物の生態のことを小学生に教えていたので僕も真似をしてカニについて教えていたらみんな聞いてくれたので良かったです。また、僕が小学生だった頃先生たちがどのような気持ちで僕たちに接していたのかを知ることができました。

2つ目は自然の大切さです。昔は外で遊ぶことも多かったのですが最近は大体の日家でゲームなどをして遊んでいたので外で遊ぶ機会が少なくなっていました。そんな中山で活動を行った日はとても疲れもしたがいつもより気持ち良く1日を過ごすことができました。やはり家にずっといると気分がさえないのでこれからは少しずつ外で遊ぶ習慣をつけていきたいです。

今回は本当に色々とありがとうございました。

小松　祐太
（杉並区立高井戸中学校２年）

8月11.12日、僕はボランティアとしてフォレストキッズスクールに参加した。ボランティア内容としては小学生と一緒に活動し、班のリーダーとしてリーダーシップをとり、まとめることだった。

初日は、小原の森での沢遊びから始まった。まわりは小学生だらけで最初は少し不安だった。特に僕の担当した3班は話を聞いてくれない子が何人かいて、困った。しかし思ったより一緒にいて楽しい。そう思える小学生達だった。

沢遊びでは、サワガニをたくさん捕まえることができた。その後小原本陣を見学し野菜の収穫を体験した。小原本陣では小原の歴史にふれることができた。また、野菜収穫ではその日の夜ご飯に食べる分の野菜、カボチャやトマトなどを収穫した。この頃には小学生とも打ち解けしゃべりながら活動を行っていた。

小学生は僕達中学生とは違い積極的で他の班の人達ともどんどん仲良くなっていた。まぁ僕的にもどんどん話しかけてくれてとても気が楽だった。

野菜収穫の後には夜ご飯を食べた。自分達でとった野菜だったのでとても美味しく感じられた。その日の夜はよく寝られた。

次の日は嵐山で3つの活動を行った。　1つ目は、山の散策、、、といっても山頂にいって帰ってくるだけだった。僕は月1回嵐山に行っているが、山頂にいったのは初めてだった。いつも行っている山の山頂に行くのがこんなに大変だとは思わなかった。小学生達もかなり疲れている様に見えるが、僕達中学生よりは元気に見えた。

2つ目は、竹細工。お昼ご飯にそうめんを食べるため、自分で「はし」と「おわん」を竹で作った。僕は、はし作りに夢中になってしまった。小学生達がはしとおわんを作り終わった頃にやっとはしを作り終えたほどだった。その後は急いでおわんを作った。その為はしとおわんとでクオリティに差が出てしまった…。

3つ目は間伐体験。体験というより見学だったこの活動は僕達中学生が木を切って見せてあげるだけだった。その後はブルベリー狩りをしてフォレストキッズスクールは終わった。

このボランティア活動を通して学んだことは2つ。小学生相手には喜怒哀楽をしっかり言葉にして伝えること。例えばダメなことはダメ！としっかり言う。もう1つは、小学生を見て学んだことで、何事にも積極的に取り組むこと。中学生になってゆづることを覚えて良くも悪くも積極的にということを無意識に遠ざけていた。これからは少しこのことを意識して、自分から行動を起こしていこうと思う。

永井　伶
（杉並区立高井戸中学校２年）

[報告２]
キーテック見学報告

７月に木更津の合板・LVL工場を見学してきました。

LVLとは単板積層材のことで、その名の通り単板を重ね、くっつけたものです。主に住宅などに用いられています。

ここでは一定の長さに切られた原木の皮をむき、ロータリーレースで桂剥きの様に切る(単板)。それを一定の大きさに切り、乾燥させる。それに接着剤をつけ、単板同士貼り合わす。

そのメリットとしては曲がったり歪んだりして柱などとして使えない間伐材が利用できること、厚さが調整でき、丈夫なこと、短板を少しずつずらして接着すれば長さも調整でき、理論上はどこまでも長くできる。大きな教室などの梁にも利用でき、これからの大きな木造建築で活躍が期待されているそうです。ただし、ここのキーテックでは輸送の関係で12mが最長。

実際の工場を見学してみるとほとんどが機械化されていました。普段の森林整備では切るのも運ぶのも手作業なので作業効率の重要さを実感しました。ただ、単板を張り合わせるときだけ手作業だったので、そこには人の勘所がまだいるのだとも思います。

普段の活動の間伐材は積み木に活用されていますが、見学を終えて、間伐材は色々なものに活用されていると知りました。

木村　縁

（本会会員、都立多摩科学技術高等学校２年）

[報告３]
10年間のご指導ありがとうございました。

「相模湖・嵐山の森」は2005年にFSC、FM認証を取得し、ご指導を受けて多くの事を学ばせて頂きましたが、本年10月24日を以て認証を終了致します。認証を継続しない理由として、[1]NPOとして認証費用の負担が大きくなってきたこと、[2]これまでの取り組みでFSCの10の原則と56の基準の実践を行ってきました。現在は、認証を受けずとも同様の取り組み、情報公開を続けてられる見通しがたった、ためです。

この10年間で習得したことを基盤として、森林が林業として成り立つ形に向けて更に研鑽努力し、森林の保全・再生に努め、世界遺産富士山麓～上流～中流～下流都市部を繋ぐ「流域サプライチェーン構築」及び、後継者育成「若者の森づくり」に取り組みます。

これまで当会をご支援下さいました多くの皆様に、深く感謝申し上げます。

石村　黄仁（本会、代表理事）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
Facebook：http://www.facebook.com/658588827578641
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版